

1 スポーツによって何を実現するか

中央大学文学部 准教授
向山 昌利

スポーツは、単なる競技や娯楽を超え、現代社会において多面的な価値を提供する身体文化として位置づけられている。その価値は、健康の増進、教育の充実、地域経済の活性化、ソーシャルキャピタルの醸成といった幅広い分野に及び、地域社会が抱える様々な課題を解決するための重要な手段となり得る。このようなスポーツの多面的な価値を活用することで、地域社会は持続可能で幸福な未来に向けた新たな可能性を切り開くことができる。

一方で、スポーツを活用して地域課題を解決し、「より良い地域社会」を実現するためには、解決すべき課題の優先順位を明確にし、その課題に即した具体的な計画を策定することが不可欠である。その際、目指すべき未来像を描くことが重要となるが、それは未来像の明確化がスポーツの果たすべき役割や具体的な活用方法を整理し、取組みをより効果的かつ持続可能なものにするための指針となるからである。しかし、「より良い地域社会」の未来像を具体的に描き出すことは容易ではない。そこで本節では、「SDGs に対するスポーツの貢献」をフレームワークとして活用することで、スポーツを活用してどのような地域社会を構築できるのかについて検討する（図表 7-1）。SDGs は、持続可能で包摂的な社会の実現を目指す国際目標であり、この目標を通じてスポーツが果たす役割を捉えることで、地域振興の先にある「より良い地域社会」を描き出すことが可能となる。

図表 7-1 SDGs に対するスポーツ貢献

SDGs の目標	スポーツの貢献
目標 1：貧困をなくそう	スポーツは、社会的・職業的スキルを提供し、幸せ、経済参加、生産性、レジリエンスを促進する手段
目標 2：飢餓をゼロに	スポーツ・プログラムは、飢餓対策の食料プログラムや教育を補完し、持続可能な食料生産やバランスの取れた食生活を促進
目標 3：すべての人に健康と福祉を	運動とスポーツは、健康維持や精神的安定を支えるとともに、疾病予防や健康教育の手段としても貢献
目標 4：質の高い教育をみんなに	体育やスポーツ活動は、児童の就学率や成績向上に寄与し、学習機会や実社会で役立つスキル習得の基盤を提供
目標 5：ジェンダー平等を実現しよう	スポーツは、女性と女兒の社会進出を支援するスキルや知識を提供し、ジェンダー平等や意識改革の促進に寄与
目標 6：安全な水とトイレを世界中に	スポーツは、水衛生に関する教育基盤として機能し、プログラムを通じて水資源の利用改善に貢献
目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに	スポーツプログラムは、省エネの推進やエネルギー供給改善の取り組みを支援する場として活用可能
目標 8：働きがいも経済成長も	スポーツ産業は、女性や障害者を含む雇用機会を創出し、コミュニティを動員して経済活動の成長を促進
目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう	スポーツは、災害後の施設再建や開発目標の達成に貢献し、開発や平和推進の革新的な手段として活用可能
目標 10：人や国の不平等をなくそう	スポーツの振興は、開発途上国間や先進国との格差縮小に貢献し、不平等解消の効果的な手段
目標 11：住み続けられるまちづくりを	スポーツを通じた包摂は「開発と平和のためのスポーツ」の重要な目標であり、気軽に利用できるスポーツ施設やサービスは包摂的かつレジリエントな取り組みの模範
目標 12：つくる責任つかう責任	スポーツ用品の持続可能な生産は、他産業での持続可能な生産と消費の推進に寄与し、関連メッセージをスポーツ用品やイベントを通じて広く発信可能
目標 13：気候変動に具体的な対策を	大型スポーツイベントは、環境持続可能性や気候課題への意識を高めるとともに、災害後の復興において絆と一体感を醸成
目標 14：海の豊かさを守ろう	水上競技を通じて、海洋資源の保全と持続可能な利用を促進する取り組みを他分野にも展開可能
目標 15：陸の豊かさも守ろう	スポーツは、陸上生態系の保全に関する教育と意識啓発の基盤となり、持続可能で環境に優しい利用を推進
目標 16：平和と公正をすべての人に	スポーツは、交流の場を提供することで相互理解や平和の文化を促進し、復興後の社会再建やコミュニティ統合を支援
目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう	スポーツは草の根からプロレベルまで、幅広いパートナーシップを通じて持続可能な開発を推進

出典：国際連合広報センター スポーツと持続可能な開発目標をもとに筆者作成
 < https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/18389/ >
 (最終閲覧日：2025年1月21日)

(1) スポーツを活用した地域振興の先にある「より良い地域社会」

スポーツは、SDGsの達成に対して効果的なツールとみなされており、SDGsが掲げる17の目標すべてに対して貢献できる可能性がある。本節では、スポーツを活用した地域振興に関連の深い5つの目標に焦点を当て、それらを通じて描かれる「より良い地域社会」を明らかにする。以下、目標とテーマ、スポーツを活用して目指される社会像、本研究との関連を記す。

【目標1：貧困をなくそう】

貧困のない社会。SDGsにおいて、貧困の撲滅は最優先課題である。すべての地域で、あらゆる形態の貧困を解消するため、例えばスポーツを通じて職業スキルを学ぶ機会を提供し、経済的自立を促進することが期待されている。本研究会との関連でいえば、産業、教育、こども・若者、生涯学習など幅広い分野とつながる。

【目標3：すべての人が健康と福祉を】

すべての人が健康と福祉を享受できる社会。スポーツは、特に身体的、精神的、社会的な健康を維持・向上させる手段として広く認識されている。健康の増進は地域全体の活力を高めるだけでなく、医療費の削減や労働力の維持にも寄与する。本研究会が実施したアンケート調査でも、スポーツが健康分野で活用されていた。

【目標5：ジェンダー平等を実現しよう】

ジェンダー平等が実現した社会。スポーツは、女性の社会進出を促進するスキルや知識を提供して、意識改革や行動変容をもたらし、ジェンダー平等を実現する可能性を秘めている。ただし、スポーツ自体がジェンダー不平等を維持し再生産する構造を内包している場合もある点には留意が必要である。本研究会の分野では、主に共生社会に関連するものとして位置づけられる。

【目標8：働きがいも経済成長も】

適切な労働と公正な賃金が保障された社会。スポーツイベントやプロスポーツ、スキー場運営といったスポーツ産業の発展を通じて、多くの人に雇用を提供し、働きがいと経済成長を両立できる社会を提供できる。この産業の発展を通じて、社会的に脆弱な人々に雇用機会を提供することも可能である。本研究会において、産業や社会的包摂に関連するものといえる。

【目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう】

持続可能で包括的な産業社会。スポーツは、災害後の復興や地域振興において重要な役割を果たし、教育やインフラ整備といった従来の手法を補完する手段として活用された。2019年のラグビーワールドカップ岩手釜石大会や2021年の東京オリンピックは、東日本大震災復興の象徴的な事例である。本研究会の分野では、産業や観光に関連するテーマといえる。

以上のように、SDGsをフレームワークとして活用することで、スポーツがもたらす具体的な価値や成果を体系的に把握することが可能となる。しかし、本節において何よりも重要な点は、「貧困のない社会」「すべての人が健康と福祉を享受できる社会」「ジェンダー平等が実現した社会」「適切な労働と公正な賃金が保障された社会」「持続可能で包括的な産業社会」など、スポーツを通じて実現できる「より良い地域社会」の未来像を浮き彫りにできる点にある。こうした未来像は政策策定の基盤となるだけでなく、政策実施の過程で生じる新たな課題に対応できる柔軟性をもたらし、その実効性を高める。したがって、SDGsを参考にしながら、スポーツによって何を実現するかを考えることは、非常に重要である。

(2) まとめ

本節では、「SDGsに対するスポーツの貢献」をフレームワーク

として活用することで地域課題を改善した先にある、「より良い地域社会」の具体像の一端を描出した。SDGsにおけるスポーツは、貧困撲滅、健康増進、ジェンダー平等の促進など、多面的な価値を提供する手段として位置づけられており、その可能性を最大限に活かすことで、地域社会に変化をもたらしている。今後は、ここで示された地域像を踏まえ、各地域の課題や独自性と関連付けながら、「より良い地域社会」を具体的に描出していくことが重要である。その際、描かれた未来像を計画に落とし込むだけでなく、自治体、地域住民、企業、民間組織など多様な主体が連携し、その実現に向けて取り組む必要がある。この連携は、単なる協力にとどまらず、それぞれの主体が役割を明確にし、互いの強みを補完する形で進められるべきであろう。次節以降、このような実施体制や連携について論じられる。